

通し番号	4918
------	------

分類番号	30-24-15-01
------	-------------

三浦半島地域における秋冬どりブロッコリーの優良品種と適した栽植密度を明らかにしました

[要約] 三浦半島地域における秋冬どりブロッコリー栽培の優良品種として、年内どりは‘アーサー’、1～2月どりは‘クリア’が適しており、栽植距離は畝間50cm、株間30cmまで密植すると、収穫時期は5～10日程度遅くなるが、花蕾品質や生理障害の発生率などには問題なく、高い可販果収量が得られる。

神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所

連絡先 046-888-3385

[背景・ねらい]

ブロッコリーは周年的に需要があり、三浦半島においても市場や直売向けに生産されているが、冬どりでは病害や生理障害の発生が問題となっている。そこで、べと病耐病性やアントシアンレスの品種から三浦半島に適した品質のよい品種を選定するとともに、栽植距離等の栽培方法についても合わせて検討を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 花蕾品質がよく、生理障害の発生率が低い秋冬どりブロッコリーの有望品種として、8月中旬播種の年内どりでは‘アーサー’、8月下旬播種の1～2月どりでは‘クリア’が優れる（表1）。
- 2 畝間60cm、株間40cmより密植すると花蕾高や茎径が小さくなり、花蕾重は減少する。畝間50cm、株間30cmまで密植しても生理障害の発生株率が低く、花蕾品質や可販果収量は高くなるが、畝間40cm、株間30cmまで密植すると花蕾の凹凸が問題となる（表2）。
- 3 累計収穫率が50%となる収穫日を栽植距離で比較すると、畝間60cm、株間40cmに比べて、畝間50cm、株間30cmでは年内どりで約5日、1～2月どりで約10日遅くなる（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 収穫期間や生理障害発生株率は、栽培期間中の気象条件により変動する。
- 2 べと病対策を確実に実施する。

[具体的データ]

表 1 12～2月どりブロッコリーの品種特性^z

品種名	播種日	収穫期間	花蕾重 ^y (g)	花蕾径 (cm)	花蕾高 (cm)	茎径 (cm)	茎空洞 ^x	花蕾凹凸 ^w	生理障害等 発生株率 ^v (%)			有望 品種
									リー フィー	アント シアン	ブ ラウン ビーズ ^z	
おはよう	8/15	11/24-12/19	350	11.8	7.1	3.9	0.0	2.1	78	0	0	
	8/25	12/15-12/28	366	11.9	7.7	4.1	0.0	1.8	100	0	0	
アーサー	8/15	11/24-12/19	370	11.4	6.8	4.2	0.0	2.9	0	0	0	○
	8/25	12/19-1/4	388	11.3	7.2	4.6	0.0	2.9	8	0	18	
あいな	8/15	12/5-1/4	382	11.0	7.2	4.7	0.1	2.8	20	48	0	
	8/25	12/28-1/31	382	10.8	7.1	4.6	0.2	2.6	5	83	5	
クリア	8/15	12/5-1/31	394	10.7	7.1	4.5	0.0	2.6	18	0	0	○
	8/25	1/4-2/6	425	11.1	7.1	4.8	0.0	2.4	0	0	0	

z: 播種は平成28年8月15日、8月25日、畝間60cm、株間40cmで栽培、各区20株、2反復で調査、y: 花蕾重は葉を摘葉して花蕾を含む花茎長を17cmに調整した重さ、x: 出荷形態の花茎切断面視により、空洞の長さが1cm未満を1、1cm以上を2とした、w: 花蕾凹凸は表面の凹凸が1:不良～3:良の3段階で評価、v: 生理障害等は発生株率を示した。

表 2 栽植距離の違いによる各品種の収穫期間及び品種特性、可販果収量^z

品種名	畝間 ×株間 (cm)	10a 当 た り の 栽 培 本 数	収穫期間	花蕾重 ^y (g)	花蕾径 (cm)	花蕾高 (cm)	茎径 (cm)	花蕾凹凸 ^x	小花 揃い ^w	生理障害 発生株率 ^v (%)		可販果 収量 ^u (t/10a)
										リー フィー	ブ ラウン ビーズ ^z	
アーサー	60×40	4,167	11/12-12/3	413	12.3	7.5	4.3	2.0	2.1	3	0	1.7
	60×30	5,556	11/12-11/29	390	11.9	7.5	4.3	2.0	2.2	0	10	2.0
	50×40	5,000	11/15-12/3	370	11.9	7.2	4.2	2.0	2.0	0	13	1.6
	50×30	6,667	11/12-12/10	364	11.6	7.3	4.2	2.0	2.1	3	8	2.2
	40×40	6,250	11/12-12/3	364	12.0	7.4	4.1	1.9	2.0	0	23	1.8
	40×30	8,333	11/12-12/3	343	11.5	7.2	4.0	1.8	2.0	0	38	1.8
クリア	60×40	4,167	1/4-2/1	535	12.6	7.7	5.2	2.0	2.0	5	0	2.1
	60×30	5,556	1/9-2/4	469	12.2	7.3	4.8	2.0	2.0	0	0	2.6
	50×40	5,000	1/16-2/7	455	12.1	7.4	4.7	2.0	2.0	0	0	2.3
	50×30	6,667	1/9-2/4	475	12.4	7.3	4.8	2.0	2.0	0	0	3.2
	40×40	6,250	1/16-2/11	437	12.2	7.2	4.6	2.0	2.0	0	0	2.7
	40×30	8,333	1/21-2/25	407	12.1	7.2	4.3	1.9	2.0	0	0	3.4

z: ‘アーサー’は平成30年8月15日、‘クリア’、平成30年8月30日に播種、各区20株、2反復で調査、y: 花蕾重は葉を摘葉して花蕾を含む花茎長を17cmに調整したときの重さ、x: 花蕾凹凸は表面の凹凸が1:不良～3:良の3段階で評価した、w: 小花揃いは小花の揃いが1:不良～3:良の3段階で評価した、v: 生理障害は発生株率を示した、u: 可販果収量=花蕾重×10a当りの栽培本数×(1-生理障害発生株率)

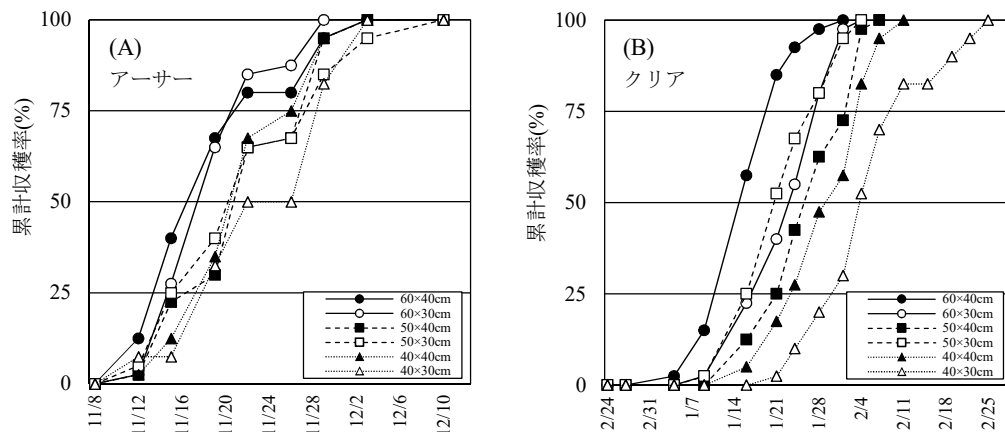


図 2 栽植距離の違いによる各品種の累計収穫率

- [資料名] 平成26～30年度試験研究成績書（三浦）
- [研究課題名] 12～2月どりブロッコリーの優良品種選定
- [研究期間] 平成26～30年度
- [研究者担当名] 太田和宏、高田敦之
- [協力・分担関係]